

第5次 御代田町長期振興計画 を策定しました

長期振興計画は、御代田町がどのようなまちづくりを進めていくべきか、またどんな方策で地域を活性化させていくか、新たなまちづくりを進めるための道標であり、町行政運営の根幹をなす計画です。

平成27年12月に開かれた平成27年度第4回御代田町議会定例会において、第5次御代田町長期振興計画基本構想(計画期間:平成28年度～平成37年度)が議決されましたので、計画の全体像をご紹介します。

御代田町の将来像

当町は、少子超高齢社会の現在においても人口が増加傾向にあります。

超長期目標として「2万人公園都市構想」を掲げ、「歴史と伝統を守り 真に自立する 文化・高原公園都市 御代田」を将来像とし、町民の皆さまと共にまちづくりを行います。

計画の構成と期間

○基本構想(10年計画) -2016(平成28)年4月1日～2026(平成38)年3月31日-

当町の現状の認識および21世紀の持続性ある振興・発展を基礎として、平成37年度(2025年度)における望ましい都市像と、これを達成するために必要な施策の大綱を定めています。

○基本計画(5年計画)

前期基本計画 -2016(平成28)年4月1日～2021(平成33)年3月31日-

基本構想に基づき、施策および根幹的事業を定めています。

この計画は、社会経済情勢の変化に即応した実効性のあるものにするため、計画期間を5年としています。

○実施計画

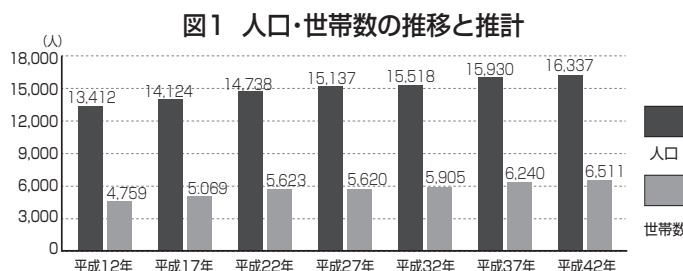
基本構想および基本計画で定められた施策に基づき、具体的に実施する事業計画とその財政見通しを明らかにするために、3年を計画期間とする実施計画を策定し、各年度の予算編成の指針とします。

この計画は、毎年ローリングを行い実効性のあるものとします。

人口推計

御代田町の人口および世帯の推計

当町の将来人口推計をコーホート要因法および当町の社会動態の実績により行った結果、平成32年には総人口が15,518人に、平成37年には15,930人に達すると推計されます。



計画の全体像

御代田町の将来像

超長期目標 2万人公園都市構想

- 2万人都市構想の要因
 - 人口が増加傾向であり、住宅地としての未利用地が多く残っています。
- 2万人都市構想の効果
 - 町が活性化するとともに、公共施設の投資効果が高く、効率的な施設運営ができます。
- 公園都市
 - 町全体を「安らぎと潤い」をイメージした公園のまちづくりを進めていきます。

歴史と伝統を守り 真の自立を目指す

文化・高原公園都市 御代田

- 歴史と伝統を守り
先人達の知恵と精神により、築き上げられた現在の御代田町の歴史と伝統を守り、まちづくりを進めていきます。
- 真の自立を目指す
計画行政により、より一層の行政改革と財政基盤の確立を図ります。また、住民自治の拡充を図り、町民と行政が共同してまちづくりを行い、真の自立を目指します。
- 文化
「エコールみよた」等の活用により、音楽・芸術鑑賞などをとおして文化の振興を図ります。「寒の水」「小田井宿まつり」など地域の伝統文化の伝承に努め、「龍神まつり」を町全体の文化に育て上げます。

基本構想の柱

人と自然が共生し安全で快適なまちをつくります

町民誰もが希望と安心の持てるまちをつくります

次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります

個性あふれ競争力ある産業振興のまちをつくります

町民自治と効率的な行政運営のまちをつくります

基本構想のベース

①「自助」・「共助」・「公助」をベースとしたまちづくり

個人自らが行う「自助」（個人の努力）、個人ではできないことを家族や地域の取り組みの中で解決する「共助」（力の結集）、それでも解決できない問題は行政が担う「公助」（補完的支援）を基本として、まちづくりを行っていく必要があります。

②「安全・安心」をベースとしたまちづくり

自然災害、事件、交通事故の多発、食の安全性の問題等日常生活における安全・安心への関心が高まっています。このため、住民が安全に安心して暮らせるまちづくりを行っていく必要があります。

③「小学校区単位」をベースとしたまちづくり

町の均衡ある発展と行政の効率的な投資のため、小学校区を単位とした投資を行い、バランスのとれたまちづくりを行っていく必要があります。

④「定住・交流」をベースとしたまちづくり

超長期目標である「2万人公園都市構想」の実現に向けて、当町に居住した人が住み続けたいくなるまちづくりを行う必要があります。

ポイント

全ての施策は、この「ベース」の考えをもとに立案します。